

景 気 動 向 調 査

(第 153 回)

2009 年 1 月 ~ 3 月 期 実 績

2009 年 4 月 ~ 6 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

| | | |
|---------------|-------|----|
| 調査要領 | | 1 |
| 概 況 | | 2 |
| 1．県内景況感について | | 4 |
| 2．業況について | | |
| (1) 売上高または出荷高 | | 5 |
| (2) 生産高または仕入高 | | 6 |
| (3) 在 庫 | | 7 |
| (4) 収 益 | | 8 |
| (5) 販売価格・仕入価格 | | 9 |
| 3．設備投資の動向について | | |
| (1) 設備投資の実施状況 | | 10 |
| (2) 設備投資の目的 | | 11 |
| 4．資金繰り状況について | | |
| (1) 資金繰り状況 | | 12 |
| (2) 現金・預金 | | 13 |
| (3) 金融機関借入 | | 13 |
| (4) 販売代金回収期間 | | 14 |
| (5) 仕入代金決済期間 | | 14 |
| 5．経営上の問題点について | | 15 |

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

- 1．実施時期 2009年3月下旬～2009年4月上旬
- 2．調査対象期間 2009年1月～3月期実績
2009年4月～6月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業 400社
- 5．回答数 208通（回答率 52.00 %）
<内訳> 製造業 66社 建設業 48社 卸・小売業 94社
- 6．調査の主要項目 (1) 業況について
(2) 設備投資の動向について
(3) 資金繰りの状況について
(4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

（注）「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

～ 景況感は更に悪化 ～

2009年1～3月期の岩手県内企業の景況感DIは、全体で92.7と前期91.3より1.4ポイントほど下向きとなった。

6期連続して下向いてきた景況感は今期更に下向き、「景況感DIワーストランキング」で新たに1位となった前期を追い抜き、ワーストランキングの記録をまた更新した。米国発の金融不安を契機とした世界経済の急激な落込みにより、国内の景況は急速に悪化しており、今後の動向が懸念される。

項目別に前回調査時(2008年10～12月期実績)と比較してみると、今期も景況感、売上高、生産高、仕入高、収益、資金繰り等で下向いている。製造業がほとんどの項目で下向いており、卸・小売業は景況感DIが96台の非常に低い水準となっている。建設業も下向く項目が多い状況にある。来期の見通しでは、業種によりバラツキがみられることから、地域の現況に改善の動きが波及してくるのが注視していきたい。

国内経済をみると、欧米の経済動向を受け輸出は大きく減少しており、その影響から鉱工業生産も減少している。収益の減少から企業の資金繰りも厳しい状況となっており、企業倒産件数は増加傾向にある。製造業を中心に設備投資は減少しており、公共投資も国・地方の財政状況を反映して引続き低調に推移している。雇用情勢は大きく悪化しており、個人消費も緩やかに減少する動きとなっている。株価は3月上旬にバブル後最安値を更新するなど、8千円台での推移が続いている。総体として景気動向は悪化する動きが強まっている。

一方、最近の岩手県内経済をみると、鉱工業生産は海外需要の減少を背景として自動車関連ほかで大きく減少しており、受注低迷から在庫調整の動きが拡まってきている。公共投資、住宅建設は僅かに前年水準を上回って推移していたが、2月以降は前年を下回って推移している。雇用情勢は厳しさを増し低い水準で低迷しており、個人消費も低調な動きとなっている。このように岩手県内景気は、後退の状況が一段と強まって、景況感急速に悪化している。

<参考>

岩手県内企業「景況感DI」ワーストランキング

| | 調査回次 | 対象期間 | 景況感DI |
|---|-------|-----------|-------|
| 1 | 第153回 | 09年1～3月 | 92.7 |
| 2 | 第152回 | 08年10～12月 | 91.3 |
| 3 | 第124回 | 01年10～12月 | 91.2 |
| 4 | 第109回 | 98年1～3月 | 90.6 |
| 5 | 第111回 | 98年7～9月 | 90.0 |

(1971(昭和46)年以降)

1. 県内景況感について
全体のD Iは、今回調査では7期連続下向きとなり、前期比1.4ポイント下降して、ワーストランキングを再度更新してトップとなった。各業種別のD Iをみると、製造業は1.3ポイント上昇したが、建設業は6.3ポイント、卸・小売業が0.9ポイント下降している。
4~6月期見通しでは、建設業が同率だが、製造業が10.9ポイント、卸・小売業が8.0ポイント上向き見通しとなっている。
2. 業況について
 - (1) 売上高または出荷高
D Iは、全体では5.7ポイント下向きとなっている。製造業が8.2ポイント、建設業が6.3ポイント、卸・小売業も4.1ポイントと全業種で下向いている。
 - (2) 生産高または仕入高
製造業の生産高は大きく下向いており、4期連続してマイナスの水準となっている。卸・小売業の仕入高は13.1ポイントと大きく下降している。
 - (3) 在 庫
製造業の製品在庫、卸・小売業の商品在庫とも下向きとなっており、特に製造業の下降幅が大きい。在庫水準では、「適正」とする比率が、卸・小売業は僅かに下降しているが、製造業では上昇している。
 - (4) 収 益
卸・小売業が上向きとなっているが、製造業と建設業は下向きとなっており、全業種でも下向いている。4~6月の見通しでは、製造業だけが上向いている。
 - (5) 販売価格・仕入価格
D Iは、販売価格、仕入価格とも大きく下向いており、仕入価格はプラスからマイナスの水準となっている。
3. 設備投資の動向について
全体でみると設備投資を「実施した」企業は18.0%と横ばいとなっており、業種別では、製造業が横ばいで、卸・小売業が上向き、建設業が下向いている。
なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の増加」が大きく比率を伸ばしトップとなり、「生産・販売能力の維持更新」が2位となっている。
4. 資金繰り状況について
全業種では、下降幅は大きくないが下向いている。なかでも製造業の下降幅が大きい。来期の見通しについては、建設業だけが下向き予想となっている。
5. 経営上の問題点について
上位の項目に変わりはないが、「原材料・仕入価格高」が比率を下げている。製造業では「受注不振」が3期連続でトップとなっており、建設業、卸・小売業では今期も「過当競争」の比率が高くなっている。

1. 県内景況感について

～ 7期連続下向き、DIさらに悪化 ～

【1～3月期の実績】 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が0.5%（前期1.4%）、「悪い」が93.2%（同92.7%）で、DIは92.7（同 91.3）と、1.4ポイント下向いている。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が89.4（同 90.7）、建設業が89.6（同 83.3）、卸・小売業が96.7（同 95.8）となっている。卸・小売業が下向いて96台となり、製造業と建設業でも89台の低い水準となっている。

【4～6月期の見通し】 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が1.0%、「悪くなる」が86.7%であることから、DIは85.7となり、1～3月期実績と比較すると上向き見通しとなっている。

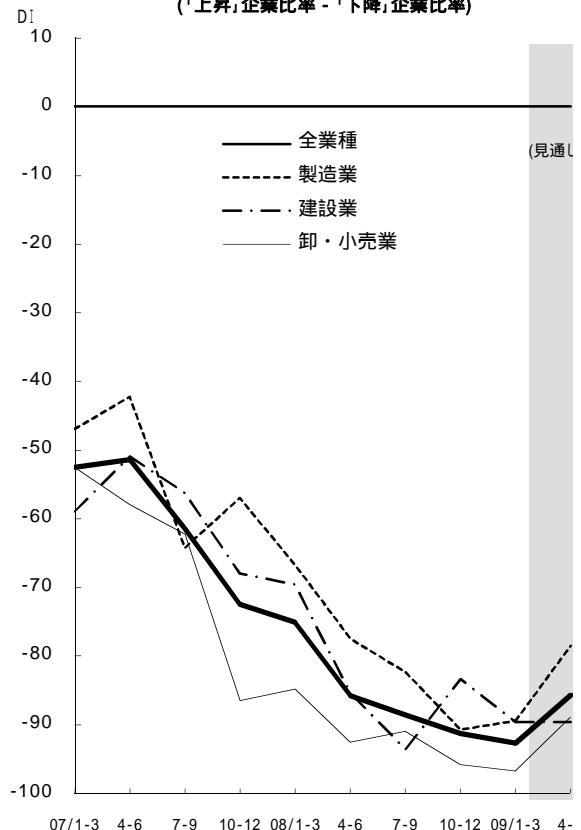
業種別にみると、製造業が78.5、建設業が89.6、卸・小売業が88.9となっており、製造業と卸・小売業が上向き見通しの回答結果だった。

県内景況感(前年同期比)

| | | (%) | | | | | |
|---------|---------------|-----|-----|------|------|------|-------|
| | 期 | 良い | やや良 | 不変 | やや悪 | 悪い | DI |
| 全業種 | 1～3月 (実績) | 0.5 | 0.0 | 6.3 | 28.0 | 65.2 | -92.7 |
| | 4～6月 (見通し) | 0.5 | 0.5 | 12.3 | 30.0 | 56.7 | -85.7 |
| (製造業) | 1～3月 (実績) | 0.0 | 0.0 | 10.6 | 25.8 | 63.6 | -89.4 |
| | 4～6月 (見通し) | 0.0 | 1.5 | 18.5 | 27.7 | 52.3 | -78.5 |
| (建設業) | 1～3月 (実績) | 2.1 | 0.0 | 6.2 | 29.2 | 62.5 | -89.6 |
| | 4～6月 (見通し) | 2.1 | 0.0 | 6.2 | 27.1 | 64.6 | -89.6 |
| (卸・小売業) | 1～3月 (実績) | 0.0 | 0.0 | 3.3 | 29.0 | 67.7 | -96.7 |
| | 4～6月 (見通し) | 0.0 | 0.0 | 11.1 | 33.3 | 55.6 | -88.9 |

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 4期連続で下向く ～

〔1～3月期の実績〕 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が15.5%(前期16.3%)、「減少」が71.9%(同67.0%)となり、DIは56.4(同50.7)と5.7ポイント下降し4期連続下向きとなっている。

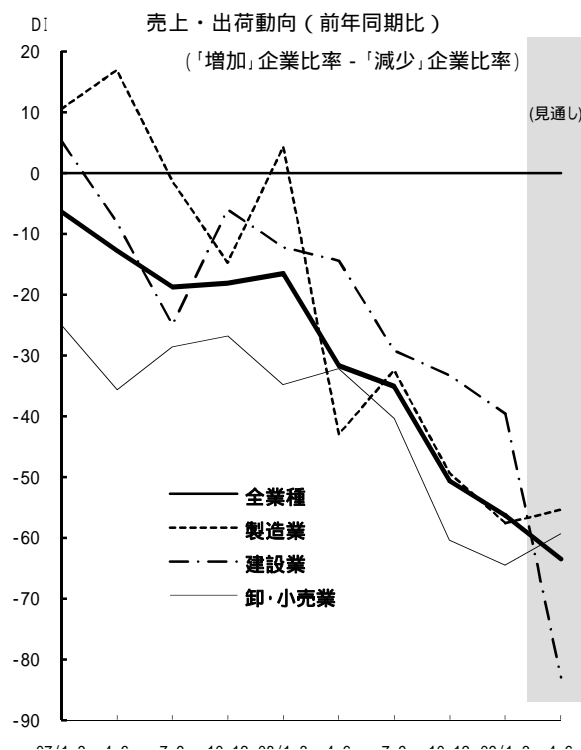
業種別にDIをみると、製造業57.6(前期49.4)、建設業39.6(同33.3)、卸・小売業64.5(同60.4)となっており、全業種で下向いている。特に、製造業が8.2ポイント下降している。

〔4～6月期の見通し〕 4～6月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が8.9%、「減少」が72.4%であることからDIは63.5で、1～3月期実績と比較して7.1ポイント下向く見通しとなっている。

業種別にDIをみると、製造業で55.4、建設業で83.0、卸・小売業で59.4となっており、1～3月期実績と比較して建設業だけ下向く見通しとなっており、43.4ポイントと大きく下降している。

売上高または出荷高(前年同期比)

| | | (%) | | | | | DI |
|---------|-----------|-----|------|------|------|------|-------|
| | 期 | 増加 | やや増 | 不変 | やや減 | 減少 | |
| 全業種 | 1～3月(実績) | 2.9 | 12.6 | 12.6 | 36.2 | 35.7 | -56.4 |
| | 4～6月(見通し) | 1.0 | 7.9 | 18.7 | 46.8 | 25.6 | -63.5 |
| (製造業) | 1～3月(実績) | 1.5 | 13.6 | 12.2 | 34.8 | 37.9 | -57.6 |
| | 4～6月(見通し) | 0.0 | 9.2 | 26.2 | 36.9 | 27.7 | -55.4 |
| (建設業) | 1～3月(実績) | 8.3 | 14.6 | 14.6 | 37.5 | 25.0 | -39.6 |
| | 4～6月(見通し) | 2.1 | 2.1 | 8.6 | 55.3 | 31.9 | -83.0 |
| (卸・小売業) | 1～3月(実績) | 1.1 | 10.8 | 11.7 | 36.6 | 39.8 | -64.5 |
| | 4～6月(見通し) | 1.1 | 9.9 | 18.6 | 49.5 | 20.9 | -59.4 |



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業の生産高、卸・小売業の仕入高とも下向く ～

[1～3月期の実績] 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が15.1%（前期23.7%）、「減少」が65.2%（同55.2%）で、DIは 50.1（同 31.5）と18.6ポイント大きく下向いている。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は8.7%（前期12.0%）、「減少」が76.1%（同66.3%）で、DIは 67.4（同 54.3）と13.1ポイント大きく下降し、4期連続下向きとなっている。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が12.3%、「減少」が61.5%であることから、DIは 49.2で、1～3月期実績と比較して横ばいとなっている。

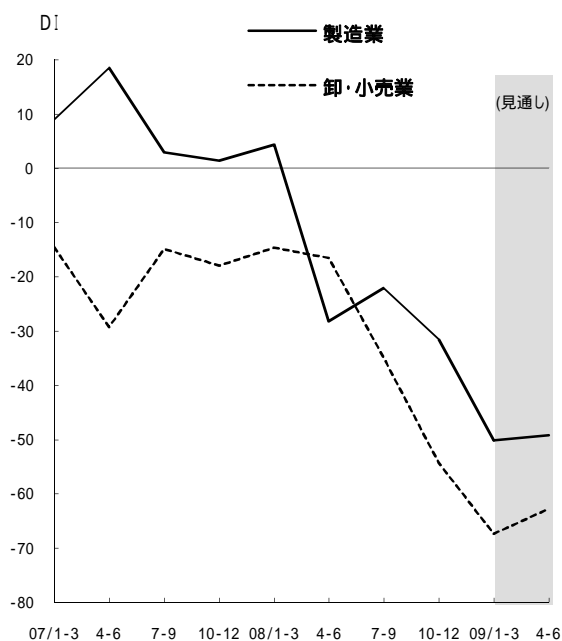
卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が7.7%、「減少」が70.4%であることから、DIは 62.7となり、1～3月期実績と比較して4.7ポイント上向く見通しとなっている。

生産高または仕入高(前年同期比)

| | | (%) | | | | | |
|---------|---------------|-----|------|------|------|------|-------|
| | 期 | 増加 | やや増 | 不変 | やや減 | 減少 | DI |
| (製造業) | 1～3月 (実績) | 3.0 | 12.1 | 19.7 | 28.8 | 36.4 | -50.1 |
| | 4～6月 (見通し) | 0.0 | 12.3 | 26.2 | 36.9 | 24.6 | -49.2 |
| (卸・小売業) | 1～3月 (実績) | 1.1 | 7.6 | 15.2 | 40.2 | 35.9 | -67.4 |
| | 4～6月 (見通し) | 1.1 | 6.6 | 21.9 | 48.4 | 22.0 | -62.7 |

生産・仕入動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 製造業、卸・小売業とも在庫下向く ～

[1～3月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は7.7%（前期15.7%）、「減少」が50.7%（同36.8%）であることから、D Iは 43.0（同 21.1）となった。また、原材料在庫水準については、「過大」が19.0%（同16.7%）、「適正」が70.7%（同68.2%）、「不足」が10.3%（同15.1%）である。

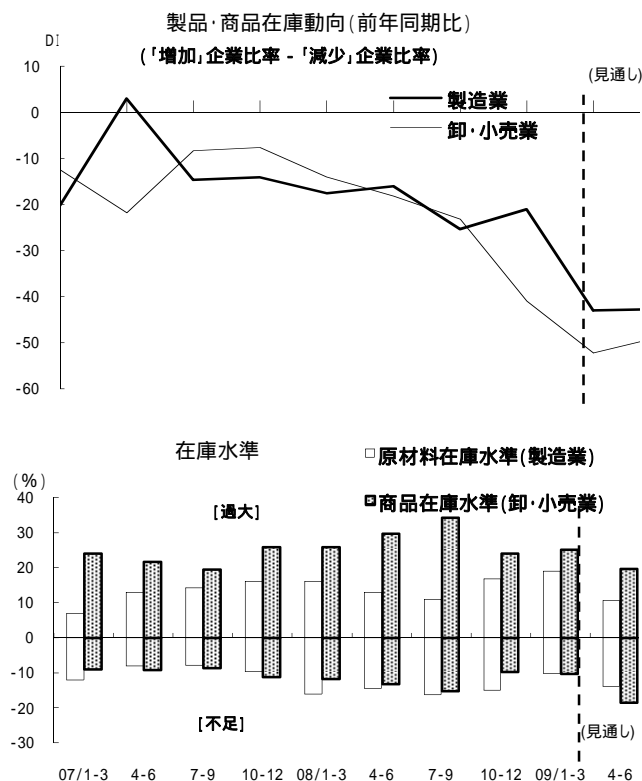
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が2.3%（前期4.5%）、「減少」54.5%（同45.5%）であることから、D Iは 52.2（同 41.0）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が25.3%（同24.1%）、「適正」が64.5%（同66.3%）、「不足」が10.2%（同9.6%）である。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が6.4%、「減少」が49.2%で、D Iは 42.8となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が10.5%、「適正」が75.5%、「不足」が14.0%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が3.6%、「減少」が52.4%であることから、D Iは 48.8となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が19.7%、「適正」が61.9%、「不足」が18.4%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

| | | （%） | | | | | |
|---------|---------------|-----|-----|------|------|------|-------|
| | 期 | 増加 | やや増 | 不変 | やや減 | 減少 | D I |
| （製造業） | 1～3月 （実績） | 1.5 | 6.2 | 41.6 | 33.8 | 16.9 | -43.0 |
| | 4～6月 （見通し） | 1.6 | 4.8 | 44.4 | 34.9 | 14.3 | -42.8 |
| （卸・小売業） | 1～3月 （実績） | 0.0 | 2.3 | 43.2 | 38.6 | 15.9 | -52.2 |
| | 4～6月 （見通し） | 0.0 | 3.6 | 44.0 | 39.3 | 13.1 | -48.8 |



(4) 収 益

～ 2期連続で下向き、来期見通しも下向く ～

〔1～3月期の実績〕 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が14.1%（前期14.1%）、「減少」が69.4%（同64.5%）であり、D Iは 55.3（同 50.4）となり4.9ポイント下向いている。

業種別にD Iをみると、製造業 56.1（前期 39.0）、建設業 57.4（同 54.1）、卸・小売業 53.7（同 57.9）と、卸・小売業が僅かに上向いているが、製造業と建設業が下向きとなっており、製造業の下降幅が大きい。

〔4～6月期の見通し〕 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が9.5%、「減少」とみる企業が66.7%であることから、D Iは 57.2で、1～3月期実績と比較して1.9ポイント下向く見通しとなっている。

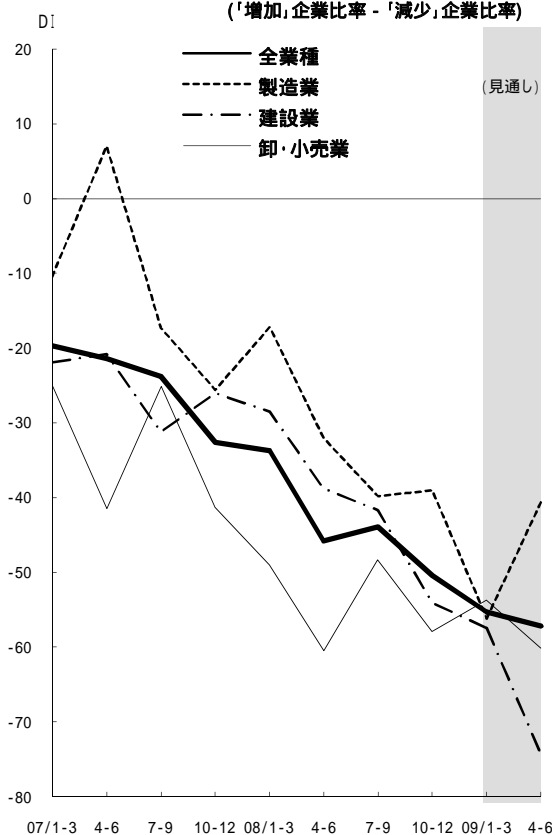
業種別にD Iをみると、製造業は 40.6、建設業 74.4、卸・小売業 60.1で、1～3月期実績と比較して、製造業だけが上向く見通しとなっている。

収 益（前年同期比）

| | | （％） | | | | | D I |
|---------|---------------|-----|------|------|------|------|-------|
| 期 | | 増加 | やや増 | 不変 | やや減 | 減少 | |
| 全業種 | 1～3月 （実績） | 1.5 | 12.6 | 16.5 | 34.0 | 35.4 | -55.3 |
| | 4～6月 （見通し） | 1.5 | 8.0 | 23.8 | 41.3 | 25.4 | -57.2 |
| （製造業） | 1～3月 （実績） | 1.5 | 10.6 | 19.7 | 30.3 | 37.9 | -56.1 |
| | 4～6月 （見通し） | 0.0 | 15.6 | 28.2 | 32.8 | 23.4 | -40.6 |
| （建設業） | 1～3月 （実績） | 0.0 | 10.6 | 21.4 | 34.0 | 34.0 | -57.4 |
| | 4～6月 （見通し） | 0.0 | 4.3 | 17.0 | 44.7 | 34.0 | -74.4 |
| （卸・小売業） | 1～3月 （実績） | 2.2 | 15.1 | 11.7 | 36.6 | 34.4 | -53.7 |
| | 4～6月 （見通し） | 3.3 | 4.4 | 24.5 | 45.6 | 22.2 | -60.1 |

収益動向（前年同期比）

（「増加」企業比率 - 「減少」企業比率）



(5) 販売価格・仕入価格

～ 販売価格、仕入価格とも大きく下向く ～

[1～3月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が12.0%（前期20.8%）、「低下」が45.9%（同35.3%）であることから、DIは33.9（同14.5）と大きく下向いている。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が28.1%（前期48.9%）、「低下」が30.5%（同18.9%）であることから、DIは2.4（同30.0）と大きく下向いて、マイナスの水準となっている。

[4～6月期の見通し] 4～6月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が12.3%、「低下」とみる企業が44.3%であることから、DIは32.0で、1～3月期実績と比較して僅かに上向く見通しとなっている。

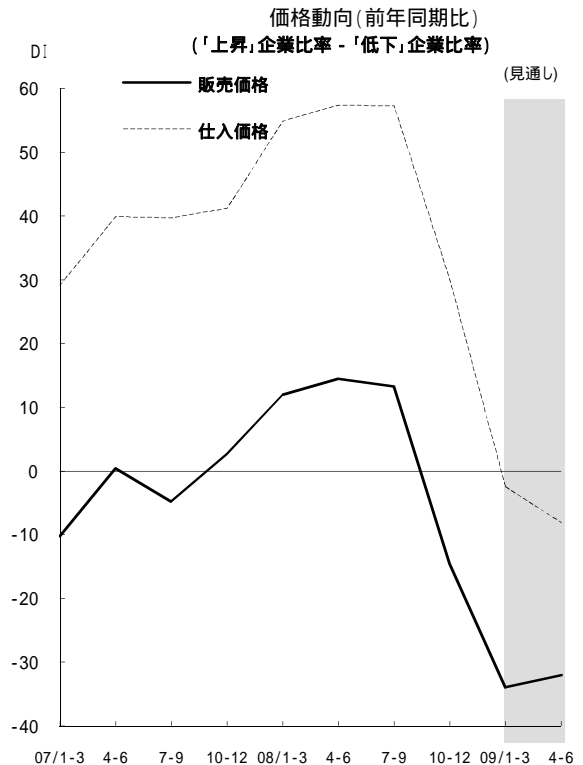
仕入価格については、「上昇」とみる企業が22.5%、「低下」とみる企業が30.5%であることからDIは8.0となり、マイナスの水準となった1～3月期から更に下向く見通しとなっている。

販売価格(前年同期比)

| | | (%) | | | | | DI |
|-----|-----------|-----|------|------|------|------|-------|
| 期 | | 上昇 | やや上 | 不変 | やや低 | 低下 | |
| 全業種 | 1～3月(実績) | 1.4 | 10.6 | 42.1 | 33.8 | 12.1 | -33.9 |
| | 4～6月(見通し) | 1.5 | 10.8 | 43.4 | 34.0 | 10.3 | -32.0 |

仕入価格(前年同期比)

| | | (%) | | | | | DI |
|-----|-----------|-----|------|------|------|-----|------|
| 期 | | 上昇 | やや上 | 不変 | やや低 | 低下 | |
| 全業種 | 1～3月(実績) | 6.3 | 21.8 | 41.4 | 25.2 | 5.3 | -2.4 |
| | 4～6月(見通し) | 5.0 | 17.5 | 47.0 | 26.5 | 4.0 | -8.0 |



3.設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

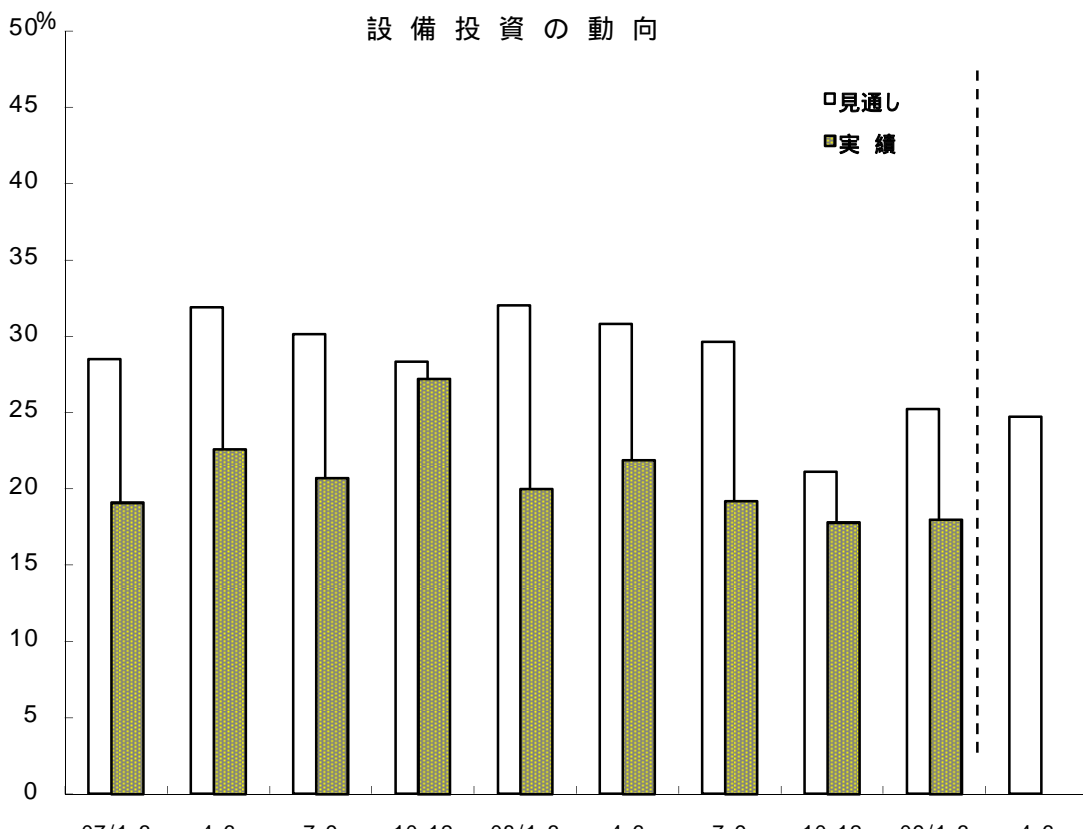
～ 建設業で実施状況下向く ～

[1～3月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は18.0%（前期17.8%）で、ほぼ横ばいとなっている。

これを業種別にみると、製造業28.6%（前期28.6%）と横ばいだが、建設業が6.5%（同12.8%）と下向いており、卸・小売業は16.5%（同11.6%）と上向いている。

[4～6月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で11.1%（前期12.4%）、「計画はあるが具体化していない」は13.6%（同12.8%）、「計画はない」は75.3%（同74.8%）であった。「計画あり」は合計24.7%（同25.2%）と前期予想より僅かに下回る見通しとなっている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で37.5%（前期37.7%）、建設業で10.9%（同8.5%）、卸・小売業で22.5%（同23.4%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

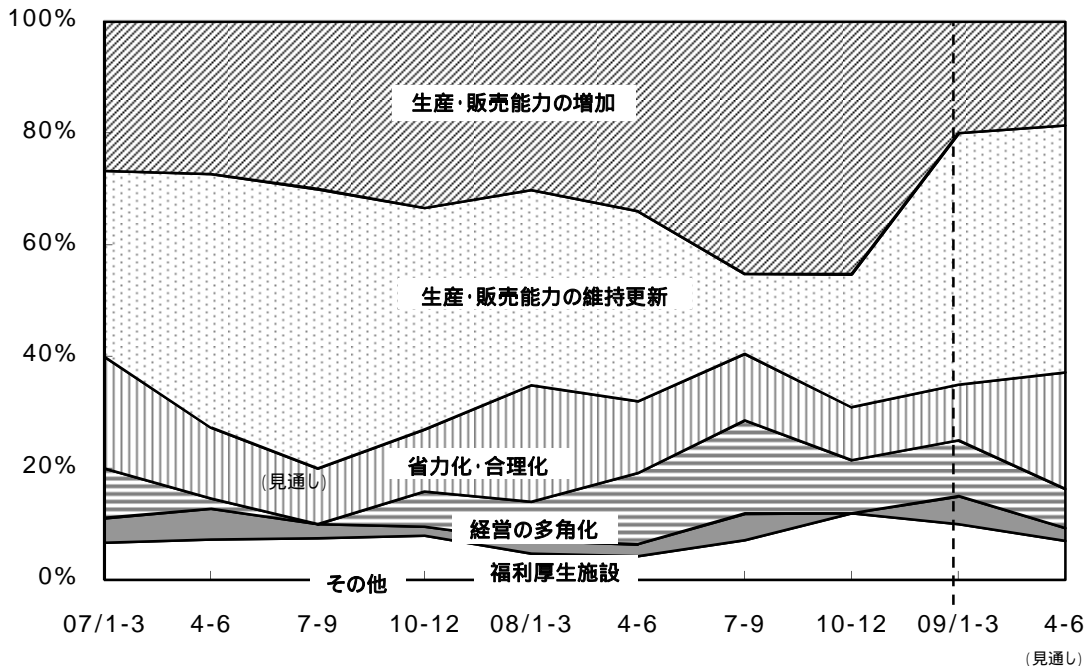
[1~3月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(18.0%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が45.0%(前期23.8%)でトップとなり、「生産・販売能力の増加」が20.0%(同45.2%)で2位、「経営の多角化」、「省力化・合理化」が10.0%で同率となっている。

業種別にみると、製造業、卸・小売業では「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」が2位となっているが、製造業では「経営の多角化」、「省力化・合理化」が同率で2位となっている。

[4~6月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(24.7%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が44.2%でトップとなり、以下、「省力化・合理化」20.9%、「生産・販売能力の増加」18.6%、「経営の多角化」7.0%の順となっている。

業種別では、製造業、建設業では「生産能力の維持更新」トップとなっているが、卸・小売業では「生産・販売能力の増加」がトップとなっている。製造業では「省力化・合理化」が高い比率となっている。

設 備 投 資 の 目 的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 製造業、卸・小売業で下向く ～

[1～3月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が5.9%(前期7.3%)、「苦しくなった」が44.9%(同40.2%)であることから、D Iは 39.0(同 32.9)と下向いている。

業種別にD Iをみると、製造業が 43.7(前期 29.9)、建設業が 29.1(同 33.3)、卸・小売業が 40.9(同 35.1)で、製造業が13.8ポイントと大きく下向いており、卸・小売業が5.8ポイント下向いている。

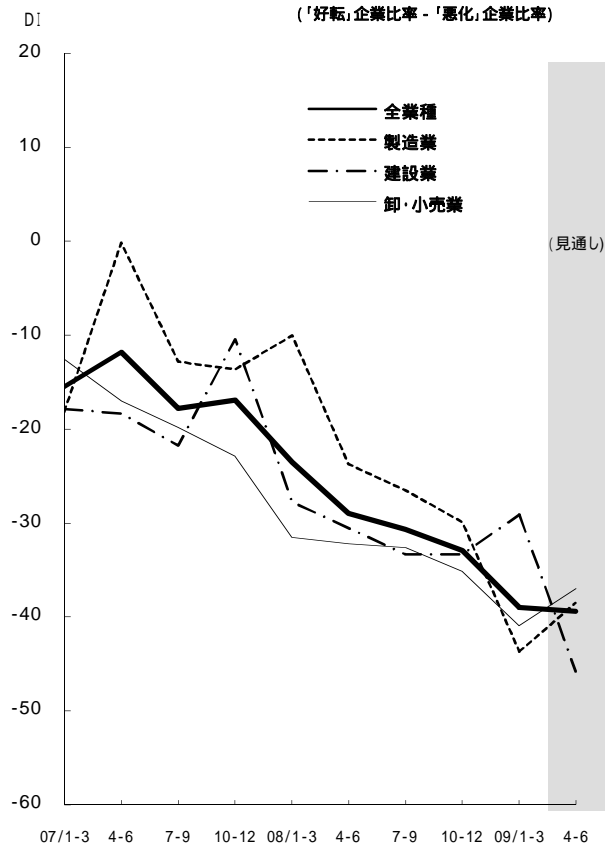
[4～6月期の見通し] 4～6月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が5.4%、「苦しくなる」が44.8%で、D Iは 39.4となり、1～3月期実績(39.0)と比較して、横ばいの見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業 38.5、建設業 45.8、卸・小売業 37.0となっており、1～3月期実績と比較して、建設業だけ下向く予想となっている。

資金繰り(前期比)

| | | (%) | | | | | D I |
|---------|---------------|-----|-----|------|------|------|-------|
| | 期 | 楽 | やや楽 | 不変 | やや苦 | 苦 | |
| 全業種 | 1～3月 (実績) | 1.5 | 4.4 | 49.2 | 28.3 | 16.6 | -39.0 |
| | 4～6月 (見通し) | 0.5 | 4.9 | 49.8 | 26.3 | 18.5 | -39.4 |
| (製造業) | 1～3月 (実績) | 1.6 | 3.1 | 46.9 | 32.8 | 15.6 | -43.7 |
| | 4～6月 (見通し) | 1.5 | 4.6 | 49.3 | 30.8 | 13.8 | -38.5 |
| (建設業) | 1～3月 (実績) | 4.2 | 4.2 | 54.1 | 14.6 | 22.9 | -29.1 |
| | 4～6月 (見通し) | 0.0 | 6.3 | 41.6 | 25.0 | 27.1 | -45.8 |
| (卸・小売業) | 1～3月 (実績) | 0.0 | 5.4 | 48.3 | 32.3 | 14.0 | -40.9 |
| | 4～6月 (見通し) | 0.0 | 4.3 | 54.4 | 23.9 | 17.4 | -37.0 |

資金繰り動向(前期比)
(「好転」企業比率-「悪化」企業比率)



(2) 現金・預金

[1~3月期の実績] 現金・預金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が8.3%(前期8.7%)、「減少した」が46.6%(同47.5%)であることから、DIは38.3(同38.8)と横ばいとなっている。

[4~6月期の見通し] 4~6月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が7.3%、「減少する」が49.2%であることから、DIは41.9(当期38.3)と下向き予想となっている。

(3) 金融機関借入

[1~3月期の実績] 金融機関借入金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が29.5%(前期29.3%)、「減少した」が26.5%(同19.6%)であることから、DIは3.0(同9.7)と下向いたがプラスの水準を維持している。

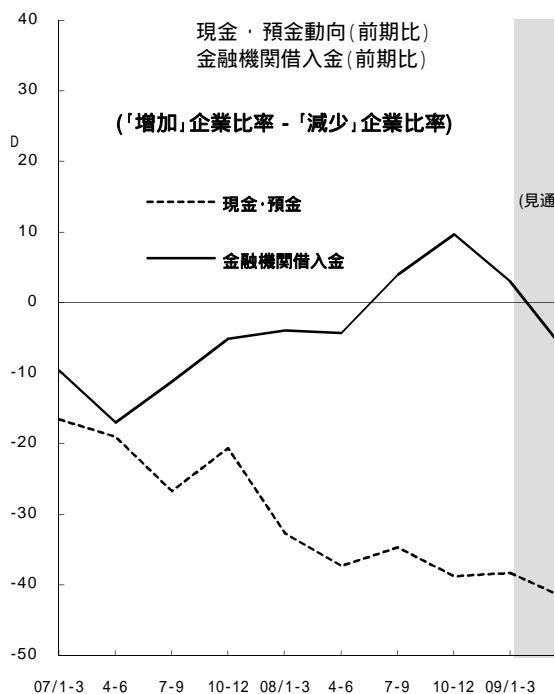
[4~6月期の見通し] 4~6月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が18.8%、「減少する」が25.9%であることから、DIは7.1(当期3.0)と下向き予想となっている。

現金・預金(前期比)

| | | (%) | | | | | DI |
|-----|-----------|-----|-----|------|------|------|-------|
| | 期 | 増加 | やや増 | 不変 | やや減 | 減少 | |
| 全業種 | 1~3月(実績) | 0.5 | 7.8 | 45.1 | 28.6 | 18.0 | -38.3 |
| | 4~6月(見通し) | 0.0 | 7.3 | 43.5 | 31.2 | 18.0 | -41.9 |

金融機関借入金(前期比)

| | | (%) | | | | | DI |
|-----|-----------|-----|------|------|------|-----|------|
| | 期 | 増加 | やや増 | 不変 | やや減 | 減少 | |
| 全業種 | 1~3月(実績) | 6.5 | 23.0 | 44.0 | 24.0 | 2.5 | 3.0 |
| | 4~6月(見通し) | 7.1 | 11.7 | 55.3 | 22.3 | 3.6 | -7.1 |



(4) 販売代金回収期間

[1~3月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が2.5%(前期3.3%)、「長くなった」が18.4%(同16.9%)であることから、DIは15.9(同13.6)となった。また、79.1%(同79.8%)の企業は「変わらない」としている。

[4~6月期の見通し] 1~3月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が2.0%、「長くなる」が20.6%であることから、DIは18.6(当期15.9)となる。また、77.4%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[1~3月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については、「長くなった」とする企業が3.0%(前期3.2%)、「短くなった」が5.0%(同7.4%)であることから、DIは2.0(同4.2)となった。また、92.0%(同89.4%)の企業は「変わらない」としている。

[4~6月期の見通し] 4~6月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が2.5%、「短くなる」が6.0%であることから、DIは3.5(当期2.0)となる。また、91.5%の企業は「変わらない」とみている。

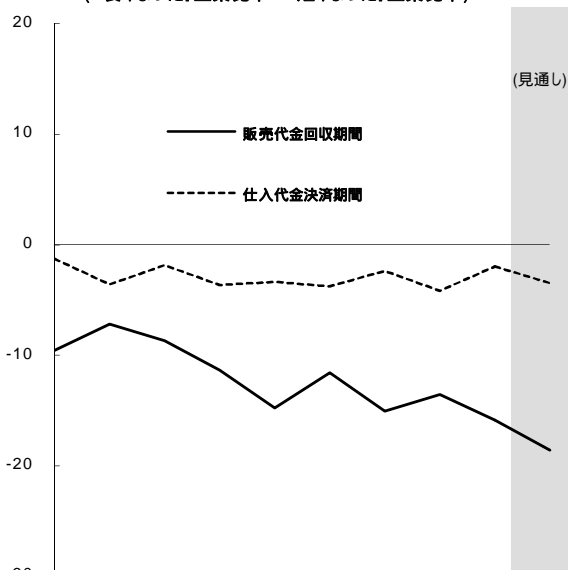
販売代金回収期間_t(前期比)

| | | (%) | | | | | DI |
|-----|-----------|-----|-----|------|------|-----|-------|
| 期 | | 短く | やや短 | 不変 | やや長 | 長く | |
| 全業種 | 1~3月(実績) | 1.0 | 1.5 | 79.1 | 13.1 | 5.3 | -15.9 |
| | 4~6月(見通し) | 0.5 | 1.5 | 77.4 | 14.7 | 5.9 | -18.6 |

仕入代金決済期間_t(前期比)

| | | (%) | | | | | DI |
|-----|-----------|-----|-----|------|-----|-----|------|
| 期 | | 長く | やや長 | 不変 | やや短 | 短く | |
| 全業種 | 1~3月(実績) | 0.0 | 3.0 | 92.0 | 3.0 | 2.0 | -2.0 |
| | 4~6月(見通し) | 0.5 | 2.0 | 91.5 | 5.0 | 1.0 | -3.5 |

販売代金回収期間動向(前期比)
('短くなった'企業比率 - '長くなった'企業比率)
仕入代金決済期間動向(前期比)
('長くなった'企業比率 - '短くなった'企業比率)



5. 経営上の問題点について

～ 「原材料・仕入価格高」比率を下げる ～

1～3月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」37.4%（前期35.0%）、「収益不振」16.2%（同19.2%）、「過当競争」14.9%（同13.2%）、「販売価格安」10.6%（同9.8%）、「原材料・仕入価格高」4.9%（同8.4%）の順となり、各々順位は変わらないが、「原材料・仕入価格高」が比率を下げている。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」35.0%（同34.3%）が3期連続でトップとなり、「収益不振」16.7%、「原材料・仕入価格高」12.5%の順になっている。建設業では「受注不振」42.0%（同33.0%）がトップとなり、「過当競争」25.0%、「収益不振」18.2%の順となっている。卸・小売業では「売上不振」37.4%（同38.4%）、「収益不振」14.9%、「過当競争」13.2%の順となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」「収益不振」「過当競争」が上位を占めているが、全業種で「販売価格安」の比率が高くなっている。

